

テーマを設定する

子ども達は日頃から自然に触れ虫や植物に親しんで過ごしています。様々な素材に触れて遊ぶこともとても喜んで取り組みます。園舎の裏側にふくろうの森遊び場として活用していますが、さらに魅力的な場所にしていきたいと思っています。造形でできたものを飾る等することができれば自然と触れ合える活動につなげることが可能かと考えています。

活動① アーティストワークショップ1

ふくろうの森でいつも親しんでいるかえるからお手紙が届いた。かえるの願いを叶えるために、想像力をはたらかせ、「ふくろうの森」をもっと素敵な場所へ

環境をデザインする

- 準備した物 線路用材料、梱包用プラスチック段ボール、毛糸、リボン、色ビニール、カッティングシート、油性マジック、半透明養生テープ、はさみ、目玉クリップ、ホットボンドほか

探究活動を実践する

● 活動内容

- ① ジョニー(アーティスト)の自己紹介
- ② 今朝、園長先生に届いた葉っぱの形をしたお手紙を読む
「僕はふくろうの森に住んでいるかえるです」
- ③ かえるの願い「森の中に電車やちいさなもだちをつくってくれと嬉しいです」
- ④ 「ふくろうの森」を見に行くと線路を発見！ ジョニー「かえるに頼まれて作ったんだよ」
- ⑤ かえるの願いを叶えるために、思いつきでどんどん描いてみよう！
- ⑥ プラダンやクリアファイルにカラーペンで描いて、ハサミで切り抜く
- ⑦ 毛糸やリボン、カッティングシートで飾り付け
- ⑧ 出来上がったら、クリップをつけて、線路に留めていく
- ⑨ 線路だけでなく、木の枝や植物につけてみる
- ⑩ まだまだ描き足りないけど、2回目を楽しみにイメージを膨らませておこう！

● 子どもたちの様子

・みんなで森を見に行くと・・・「あっ、せんろ！」「ながーい！」「じゃあわたし、かわいいのつくる！」「木につけてもいいの？」作りたい気持ちがさらに膨らんで、部屋に駆け戻っていく。
・「これはレインボーフレンズ。こわくみえるけどほんとはかわいいよ」とちいさなもだちをつくる子や、「だんごむしとか、ここから出たり入ったり。上へ登れるようにもするの。窓からも入れる！」と大好きな電車を考える子。アイデアがどんどん浮かび、森の線路へ設置していく。

活動スケジュール(5歳児クラス)

活動内容	実施日	時間/回	人数/回
① ふくろうの森探索	R6.9.19(木)～11月	30分程度/ 複数回	12人～ 15人
② アーティストワークショップ1 講師:水内貴英(美術家)	R6.11.11(月)	60分程度	11人
③ アーティストワークショップ2 講師:水内貴英(美術家)	R6.11.13(水)	90分程度	14人
④ ふくろうの森に飾りたいものの製作 づくり	R6.11.13(水)以降	複数回	



振り返りをふまえた気づき

● 保育士から

- ・かえるからの手紙が導入としてあり、その後実際に「ふくろうの森」に足を運んで線路を見たことで、子どもたちの想像力が掻き立てられ、考え込まずに自由な思いつきで制作に入れた。
- ・子どもたちのアイデアをもとに外部講師が手紙を考えてくれたので、かえるのお願いにも親身になって応えようとする姿が見られた。「ふくろうの森」への関りがより深まり、楽しかった。
- ・室内でつくったものを、すぐに外の線路に設置できるスタイルがよかった。動くことで新たなアイデアが浮かび、次はこうしようかな、と工夫を凝らしていた。

活動② アーティストワークショップ2

前回に引き続き、「ふくろうの森」にいきものや、電車、おうちなどを設置していき、素敵な場所に仕上げていく。線路が賑やかになると、子どもたちの間で自然にごっこ遊びへと展開していった。

環境をデザインする

●準備した物 梱包用プラスチック段ボール、毛糸、リボン、色ビニル、カットニングシート、油性マジック、半透明養生テープ、はさみ、目玉クリップ、ホットボンドほか

探究活動を実践する

●活動内容

- ①ジョニー(アーティスト)から「1回目(2日前)の続きをやります！」
- ②素材を自由に使って制作開始 ~虫、生き物、キャラクター、おうち、電車など
- ③制作したものは「ふくろうの森」へ行って線路などに設置
- ④保育室と「ふくろうの森」を行ったり、来たり。
- ⑤本物のカエルも発見
- ⑥「ふくろうの森」では自然と電車ごっこやカエルの物語ごっこが始まる
- ⑦最後に、ジョニーからお話。
「カエルの願いをみんなが叶えてくれた。ジョニーとは今日でお別れだけど、線路や素材は残していくので、みんなはぜひ森づくりを続けていってください。」

●子供たちの様子

・「これ、あたらしいCMできたよ」と言いながら、自分が描いた絵を線路の上部に飾ると、透明なプラダンに陽が射して色がキラリ。光と色の透かしを楽しむ姿が見られた。
・「かえる、いたー！」「できたあ！」と森の奥で本物のかえるを発見し、大興奮！ひとりの子がかえるのおうちを作ると、おうち作りブームが広がり、みんなのやりとりがどんどん活発になっていった。
・「よし、たんけんしよう！オバケやオオカミにあわないように…いこう！」と、「探検隊ごっこ」も始まった。「作る」と「遊ぶ」を行き交いながら、自然と次の作りたいものが湧いていた。



振り返りをふまえた気づき

●保育士から

- ・前回から日を空けずに2回目を実施されたので、スムーズにリラックスして制作に取り組んでいた。
- ・今年の発表会で、手紙から発展した物語を披露する予定だが、今後も「ふくろうの森」を題材にした探究活動を継続していきたい。
- ・本物のかえるが出てきたことで、物語に現実味が増した。かえるのために家をつくって、葉っぱや水の中に入れてあげたり、生き物への関心が高まり、思いやる気持ちが芽生えていた。
- ・カメレオンやおうちづくりなど相手に触発されて真似してみたり、友達とごっこ遊びが始まったり、途中から自分の世界から外の世界へと広がりを見せていた。
- ・12月の発表会や卒園制作にもつなげた。